

春のいぶき（6年国語の教科書 38ページより）

今週から「穀雨^{こくう}」です。みなさん元気に過ごしていますか？

6年生の国語では、二十四節気という、日本に昔から伝わる季節の区切りを学習します。「穀雨」の意味は教科書に載っているので、見てくださいね。新型コロナウイルス対策で、外出できない日が続いていますが、自分のまわりにある「春」を探してみましょ。花や木々、虫や鳥などの動植物だけでなく、食べ物などいろいろな春を感じてみてください。

では、6年担任が感じた季節を紹介します。

6年1組

先生は小浜市出身です。小浜市の春の風物詩といえば「イサザ漁」です。このイサザ、どうやって食べるかというと・・・なんと、ポン酢などをかけて生きたまま食べます。「踊り食い」です。口の中で動きまわり、動きながら喉を通っていく感触がとても不思議です。少しかわいそうな気もしますが、立派な伝統文化です。ぜひ体験してみてください。



6年2組

昨夜、なかなか寝付けずに寝返りを繰り返していたら、家の前の田んぼから聞こえてくる蛙たちの盛大な鳴き声に気付きました。休校以来、何となく時間は止まってしまったように感じていましたが、季節



は変わらずに、ちゃんと巡ってきているんだなあと改めて思いました。

※写真は「高田型トノサマガエル」といって、背中の線がないのです。福井・石川などの限られた地域でしか見られないそうですよ。見つかるかな？

6年3組



南児童玄関にあるプランターです。このような状況でも美しい花を咲かせ、私たちに春を届けてくれています。このたくましさや明るさを見習いたいな…と感じました。

6年4組

朝起きると、ウグイスの声が聞こえる日があります。
我が家では、タケノコがとれるようになりました。
たくさんとれるので、かまどでタケノコを茹でています。
ちなみに、タケノコ（筍）は初夏の季語らしいです。

